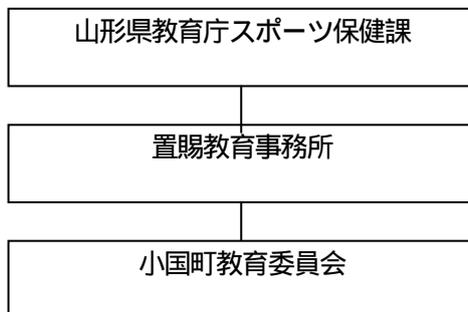


# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	山形県
再委託先	小国町

## 1. 事業推進の体制



## 2. 具体的取組等について

テーマ1	食育への全県的な理解促進（事業成果の普及、情報発信）と子どもの朝食欠食率低減のための取組み
	<p>推進地域について、町の検討委員会等の機会を捉えて、栄養教諭だけが事業を行っていくものではない等、所要の技術的助言、指導等を行った。</p> <p>第1回小国町食育推進会議に出席 平成23年7月11日（月）おぐに開発総合センター 出席者20名 協議内容 ・事業の趣旨及び事業内容等について ・児童の食生活実態調査・保護者の食生活に関する意識調査について ・情報交換</p> <p>県内の小中学生及び保護者を対象とした啓発資料を作成・配布を行った。 学校における食育の取組みを、県のホームページで紹介し、広く情報発信を行っている。 学校における食育について、学校関係者の理解を深め、幅広い意見をいただき施策に反映できるよう学校食育推進会議」を開催した。</p> <p>平成23年9月15日（木） 山形県私学会館 出席者46名 協議内容 ・山形県教育委員会の食育施策について ・食育の取組み状況について ・事例発表 小学校における食育の取組み（小国町立小国小学校 栄養教諭） 高等学校における食育の取組み（県立山辺高等学校 養護教諭） ・意見交換</p> <p>県の食育県民運動・地産地消推進本部において、当該事業の取組み状況を紹介し、県全体への普及を図った。 平成23年6月13日（月） ホテルメトロポリタン山形 出席者87名 協議内容 ・食育県民運動・地産地消推進本部設置要綱の一部改正について ・山形県食育・地産地消推進計画について ・平成23年度における県の食育・地産地消推進の主要施策について</p> <p>推進地域について、これを機に引き続き食育に係る取組みを行うよう、所要の技術的助言、指導等を行った。 第2回小国町食育推進検討委員会に出席 平成24年2月29日（水） 小国小学校 出席者20名 協議内容 (1)事業報告について ・給食の試食 ・全体の取組みについて ・各学校の取組みについて ・各委員からの質疑助言等 (2)次年度以降の推進について</p>

- ・今後の食育の取り組みの推進内容について
- ・各委員からの助言等

## テーマ1～3に共通する具体的計画

県内の小中学生及び保護者を対象とした啓発資料を作成・配布を行い、食育の重要性を家庭へ広めることができた。

食育啓発パンフレットの作成・配付



## 数字で変化のあった事項について

### 【平成22年度全国学力・学習状況調査における朝食欠食率】

《設問》朝食を毎日食べていますか。

4. 全くしていないと回答した小学6年生の割合 0.5%

### 【平成23年度山形県独自調査における朝食欠食率】

《設問》朝食を毎日食べていますか。

4. 全くしていないと回答した小学6年生の割合 0.2%

上記の結果により、各家庭における食に関する関心が高まっている様子が見えてくる。

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- ・ 小国町の食育推進会議に出席し、栄養教諭だけが行う事業ではないこと等の助言を行い、町をあげて事業に取り組んでいただいた。
- ・ 県内の小中学生及び保護者を対象とした啓発資料を作成・配布を行い、食育の重要性を家庭へ広めることができた。
- ・ 食育推進会議の席上において、専門的な立場の方々から学校教育における食育について様々な意見をいただくことができた。また、市町村間の食育に関する活動内容等の情報交換を行い、県全体の食育活動や実践及び啓発等を推進することができた。
- ・ 県の食育県民運動・地産地消推進本部会議の席上において、農業、健康、教育等それぞれの視点から様々な意見をいただくことができた。

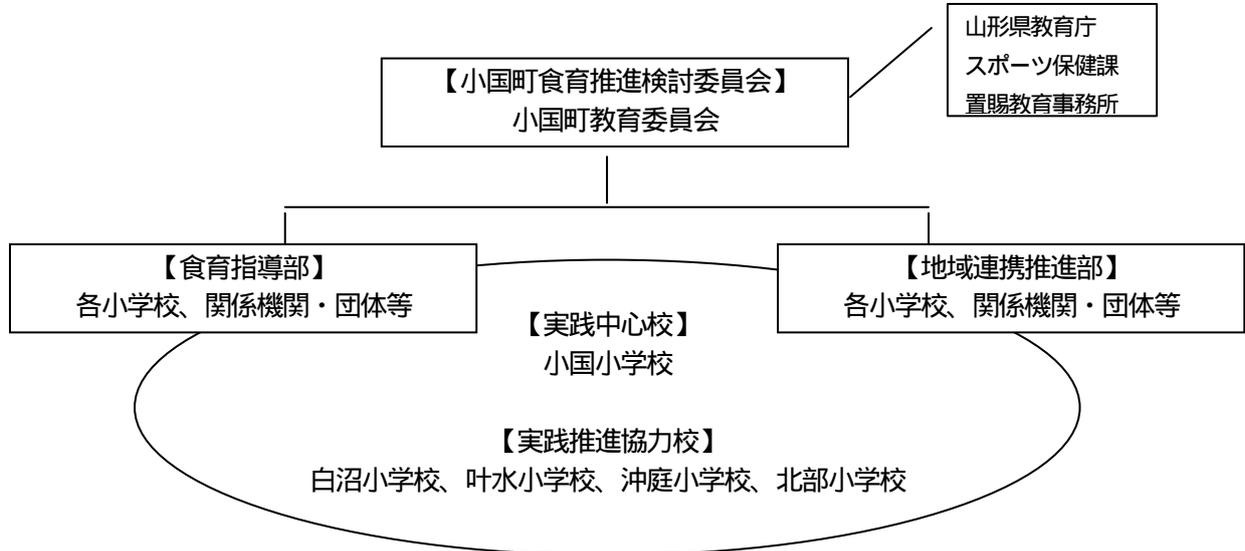
### 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- ・ 食育推進会議でいただいた専門的な立場の方々からの意見等を、県全体の食育推進に活かしていく必要がある。
- ・ 啓発資料の配付は部数の追加希望などかなり好評をいただいたが、単発で終わらず家庭等への継続した啓発が必要である。

再委託先

小国町

## 1. 事業推進の体制



## 2. 具体的取組等について

### テーマ1 学校と家庭・地域との連携による食に関する指導の充実のための取組

実践中心校、及び実践協力校の各校において、食育の全体計画と年間指導計画の改善を図り、各分野・領域を関連付けながら計画的に指導を積み上げるようにした。

各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間において、栄養教諭が学級担任や教科担任・養護教諭等と積極的に連携し、食に関する授業づくりを進めた。また、栄養教諭は、先進地や研究に取り組んでいる学校（千葉県船橋市）を視察するなどして、食育指導についての研修に努めた。

実践中心校では、「全校給食指導」（お花見給食、七夕給食、芋煮給食、お月見給食等）の取り組みを充実させながら、給食の時間を通じて望ましい食習慣の形成に関わる指導や食文化への関心を高めるよう、栄養教諭と学級担任が連携を図りながら指導を行った。

<お花見給食>



<七夕給食>



<お月見給食>



食の大切さを家庭でも見つめ直してもらうよう食の指導に関する授業参観（実践中心校による全校一斉の実施）や給食試食会等を企画したり、講師を招いての食育講演会を開催したりすることにより、家庭・保護者の食に対する関心を高めるようにした。

【実践中心校における授業参観時の食に関する指導】

3年生「すききらいをなくそう」



嫌いな食べ物は、ピーマン・なす・わらび・チーズ...好き嫌いがある子どもを減らしたいと願い題材を設定。

6年生「残菜はどこへゆく」



自分たちが食べ残したものがどうなるのかについて、真剣な話し合いが展開された。



【食育講演会】

「子どもの食生活の大切さ」～心と身体を元気にする食事～



講師  
パイオニア  
レッドウイングス  
栄養トレーナー  
山口 喜代美 氏



P T A活動との連携により親子料理教室を実施し、食に関する講話や食生活改善推進員等の協力を得ての郷土料理の試食など、親子で学ぶ機会を設けて、そのよさやすばらしさに気付かせるようにした。

【P T A活動との連携による親子料理教室等】



食生活改善推進員の方々の食に関する指導と山菜を材料とした郷土料理を親子で会食。

(山菜を材料とした郷土料理)



学校における農業体験及び栽培活動に地域の生産者及び関係団体等を積極的に招き、食材への関心を高めたり、収穫への感謝の気持ちを育んだりするようにした。また、栽培 調理 会食のサイクルで体験活動を行うことで、食への感謝や楽しさを実感させるようにした。

【実践協力校における食農体験活動】



サトイモの植え付けのための畝作りと収穫作業

地域の先生との豆腐作り

給食だよりを定期的に発行し、規則正しい食習慣の大切さ、栄養や食品の知識、食事のマナー、学校給食の様子等を紹介することにより、家庭における食生活の意識の向上をめざした。

食に関するアンケート調査を行い、実態・意識の把握に努めるとともに、その分析結果と関連させて親子料理教室を開催した。さらに、親子料理教室で取り組んだ料理のレシピ等やアンケート結果を内容とするリーフレットを作成し、町内全児童の家庭へ配布して食育の啓発を図った。

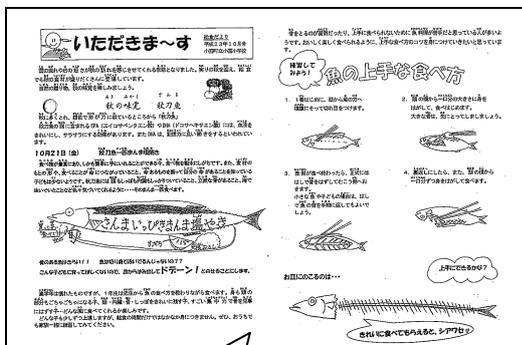
【親子料理教室】



『野菜をおしく食べよう』をテーマに、野菜ソムリエの資格を持つ講師を招いての親子料理教室を開催。

テーマ1～3に共通する具体的計画

【保護者・地域への情報発信】



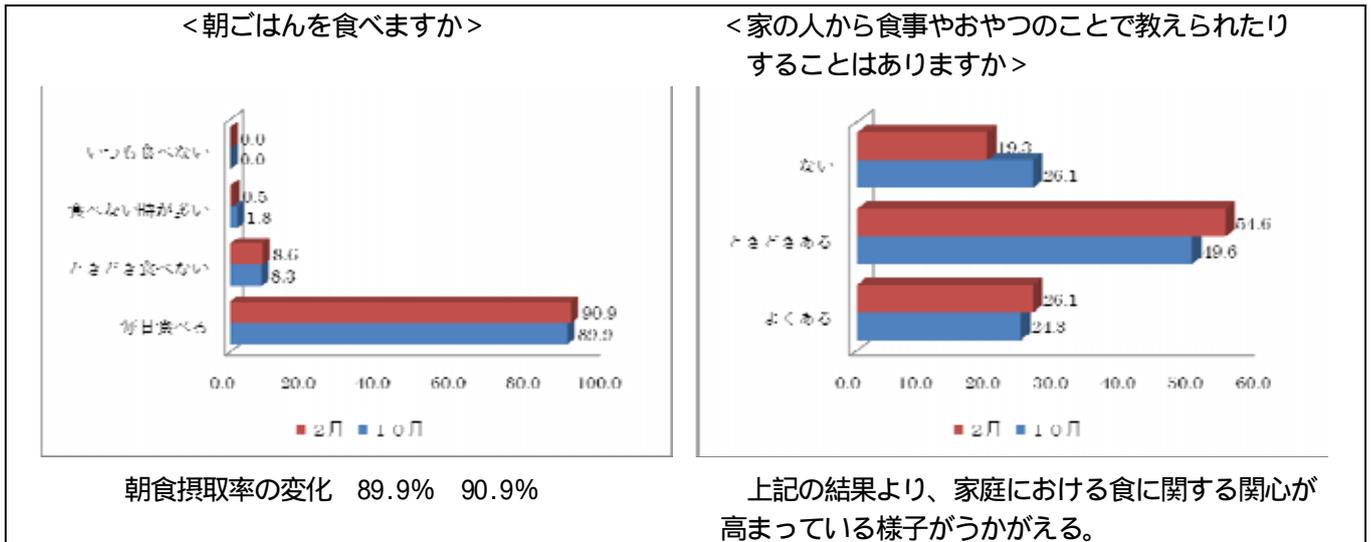
給食だより「いただきます」を毎月発行し、学校給食の取り組みの様子や食に関する情報を発信。

食育啓発リーフレットの作成



食に関するアンケート結果や親子料理教室のレシピ等を掲載。町内全ての児童の家庭へ配布。

## 数字で変化のあった事項について



## 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- ・ 食育推進会議を立ち上げ、様々な立場の方々から学校教育における食育について意見をいただくことができた。また、学校間においても、食育に関する情報交換ができる場となり、町全体としての食育推進の意識を高めることができた。
- ・ 実践中心校である小国小学校では、7月の授業参観時に全学級（15学級）で食育の授業に取り組むなど、食育の年間指導計画に添って、ねらいを明確にした実践を積み上げることができた。また、本事業をきっかけとして、栄養教諭を中心に長年に渡って積み上げてきた学校給食を通しての食育を一層、充実させることができた。
- ・ 実践協力校では、本事業をきっかけとして、食育の視点から教科・領域等における取り組みを見直したり、価値づけを行ったりするなど、食育推進の意識が高まった。
- ・ 給食日より、保護者を対象とする食育講演会、親子による料理教室、食育リーフレットの配布、さらには食に関するアンケートを実施することを通して、食育の大切さを家庭へ広めていくことができた。
- ・ 2回のアンケート結果を比較すると、家族でいつも一緒に食事をする割合が、児童で約3%、保護者で約6%向上している。また、家の人から食事やおやつので教えられたりする割合では、「ときどきある」「よくある」を合わせると約7%も増えていることがわかる。その他の結果からも、家庭・保護者の食に対する意識が本事業を実施した効果で高まってきている状況を見ることができる。

## 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- ・ 先行して取り組みが始まっていた他部局との連携を予定していたが、それぞれのねらいの違いから情報交換程度から進むことができなかった。町として統一した取り組みができるように、食育の全体指針となるべき食育推進計画等の策定が望まれるところである。
- ・ 本町の場合、小学校5校中、2校は給食が実施されていないという実態がある。学校規模（極小規模）や地域性（僻地）等といったことが原因であるため、いたしかたないところではあるが、学校給食による統一性のある食育の取り組みができないところは残念である。
- ・ 平成26年度をめぐりに中心校への学校統合が進められ、新校舎では中学校も含めた学校給食が実施されることになっている。統一した給食環境のもと、小国町内のすべての子どもに、食に関する正しい知識と望ましい食習慣等を身につけられるよう、食育の全体計画や年間指導計画等の改善を図っていくようにしたい。
- ・ 児童を対象としたアンケートの結果に、「朝ごはん・夕ごはんを食べない時が多い」、「一人で食事をすることが多い」という回答があること自体が大きな課題である。また、保護者の調査結果でも、「食育に関心がない」（10月：2.6%、2月：2.4%）等という回答があることを重く受けとめ、学校教育だけでなく、家庭・地域とも連携・協力して、食育を推進していくことが必要である。